

## 課 題

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、多くの人命や家屋等への甚大な被害のほか、ライフライン等への多大な被害をもたらし、被害の範囲は新潟県や富山県などにも広く及んだ。また、大規模な土砂崩壊等により道路が寸断され、多数の孤立集落の発生や避難生活の長期化など、災害対応上教訓とすべき様々な課題が顕在化し、新たな地震防災対策を検討する必要性が生じた。

災害に強くしなやかな国づくりに向けては、過去の地震における災害対応を振り返ることで課題・教訓を整理し、南海トラフ地震をはじめとする、今後の地震災害における応急対策・生活支援対策に活かしていくことが極めて重要である。京都府においても、府内で最大の被害が想定されている花折断層帯など主要な活断層による地震被害想定の見直し結果や、令和6年能登半島地震の教訓も踏まえ、今般、第四次京都府戦略的地震防災対策指針及び同推進プランの策定を行い、孤立集落対策の強化、避難所の生活環境の確保、備蓄体制の強化、要配慮者対策の強化に重点的に取り組み、府民の生命と生活を守る対策を進めていくこととしている。

問1 京都府における地震等の災害対応の課題としてあなたが考えることを、400字以内で簡潔に記述しなさい。

問2 問1で記述した課題を解決するために、京都府が実施すべきとあなたが考える事業について、具体的な手法と期待される事業効果とともに、600字以内で記述しなさい。

(注) 書き出しの一字下げや改行によって生じた空白、句読点も字数に含める。

### 【参考】

<第四次京都府戦略的地震防災対策指針及び同推進プランの概要>

#### (1) 指 針

##### ・ 基本理念

南海トラフ地震及び直下型地震の発生の可能性が高まる中、これまでの災害からの教訓を踏まえ、ハード・ソフト一体的な地震防災対策により災害に強い京都を実現し、府民の生命と生活を守る。

##### ・ 減災目標

ハード・ソフト一体的な地震防災対策を推進するとともに、被災者の命と健康を守るきめ細やかな対策により被害を最小化し、死者ゼロを目指す。

##### ・ 対策の5つの柱

① 地震による被害を抑止するまちづくり（建物や上下水道の耐震化などハード対策）

② 地震による被害を軽減する人づくり（防災教育などソフト対策）

③ 行政等の災害対応力の向上（応援・受援体制の確保や孤立対策等）

④ 被災後の命と健康を守る対策（避難所の環境整備等）

⑤ 被災地の地域特性や被災者のニーズを考慮した復旧・復興（応急仮設住宅による住まいの再建等）

#### (2) 推進プラン

- ・ 指針における「対策の5つの柱」を推進するための具体的な事業を記載